

# 楓の森アップデート

学校教育目標：夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成



合志市立合志楓の森小学校  
学校だより 第16号

令和5年(2023年)12月15日  
文責 校長 佐藤 政臣

## 人権月間についてパート④

### 縦割り人権集会

～小学5.6年、中学1～3年～

12月12日(火)～14日(木)の3・4校時に小学校5年から中学校3年生までを縦割りで3つのグループに分けた「縦割り人権集会」を行いました。



インフルエンザによる感染拡大防止のため、対面での開催でなく、オンラインでの開催となりました。

5年生は、水俣の現地で学んだ「水俣病の患者やその家族への偏見・差別」について、思ったことや考えたことをもとに、身の回りの差別や偏見について考えたことを発表することができました。

6年生は、修学旅行を通して、平和の誓いをしました。原爆資料館や原爆が投下された周辺をフィールドワークしたことで、戦争の恐ろしさや平和の尊さを学ぶことができました。その学びとこれからの自分自身の生き方を重ねて考え、発表することができました。

中学1年生は、部落問題学習で「わたしは負けない」という題材で狭山事件の石川一雄さんの生き方(差別によって多くのことを奪われながらもそれに負けずに差別に立ち向かった不屈のこころ)を学んだことを発表しました。

中学2年生も部落問題学習から偏見・差別の愚かさを学び、自分達の生活を振り返って、偏見や差別がないか、また、自分自身の差別心についても考えることができました。

中学3年生は、インフルエンザで学級閉鎖等もあり、参加できませんでした。そこで、部落差別による就職差別について学習したことをまとめたものを中学校の小山先生が代読されました。

最後に会のまとめを中学校の高橋誉教頭先生が行いました。高橋教頭先生は、「学習して思ったことや考えたことを発表してくれましたが、それで終わりでは何もならない。偏見や差別とたたかうために、それを行動に移してください、そうしな

いと何も変わらない。また、このような学習をして、心が成長していくことは、小学5年生であろうと中学3年生であろうと年齢には関係ありません。小学生でも人権意識が高まっている人もいれば、残念ながら大人になっても人権意識がまだまだの方もいらっしゃると思います。学習を積み重ねて人権に対する意識を高めていきましょう。」とまとめられました。

### 菊池恵楓園見学(2年生)

～ハンセン病患者及びその家族への偏見・差別を考える～

本校は、旧菊池医療刑務支所跡地に新設校として建設されました。また、菊池恵楓園に隣接しています。



そのようなことから、人権教育の柱として、「ハンセン病患者及びその家族への偏見・差別」について学習します。

今年度は、2年生は園内の見学をし、5年

生で資料館の展示物を見ることで偏見や差別について学びました。

12月14日(木)、15日(金)8:50～9:50、2年生が恵楓園の見学に行きました。境園長自ら案内していただきました。マスクミ(TKU、熊日)の取材もありました。

ハンセン病は、おそろしい病気であるというイメージが植え付けられ、それが偏見や差別を助長していきました。「らい予防法」が廃止された現在でも未だに社会における偏見・差別が残っていることなどもあり、園の外で暮らすことに不安があり、安心して退所することができないという人もいることなどを学びました。

\*\*\*\*\*



わかば学級の子もたちからクリスマスリースをいただきました。すごく上手にできています。(^^)校長室入り口に飾りました。ありがとう!

楓の森小HP

学校行事や子どもたちの学習の様子につきましては毎日ホームページを更新していますので、ご覧下さい  
<https://es.higo.ed.jp/kaedenomori/>

